

プログラム番号	06072
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	島根大学 総合理工学研究科		
②学長名	本田 雄一		
③所在地	〒690-8504 島根県松江市西川津町1060		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学術国際部 社会・国際連携課・留学生係長	
	担当者氏名	母里 充	e-mailアドレス gak-ryugaku@jn.shimane-u.ac.jp
	電話・FAX番号	電話：0852-32-6106・FAX：0852-32-6481	
⑤ホームページ URL	http://www.shimane-u.ac.jp/en/		
⑥大学院在学留学生数	90 人（うち、国費留学生 41 人）		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	英語による「地球」教育研究特別プログラム
②プログラムの形態	博士前期課程+博士後期課程（2+3年間）
③実施研究科・専攻	総合理工学研究科・地球資源環境学専攻
	（所在地）島根県松江市西川津町1060
④連携大学・研究科・専攻名	
⑤受入れ学生数	博士前期課程9人（うち研究留学生優先配置人数：3人） （うち日本人学生数：3人） 博士後期課程6人（うち研究留学生優先配置人数：2人） （うち日本人学生数：2人）
⑥担当教員数	合計 27人（うち専任：26人、兼任： 人、非常勤：1人）
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 総合理工学研究科・研究科長
	研究科長名 今岡 輝男

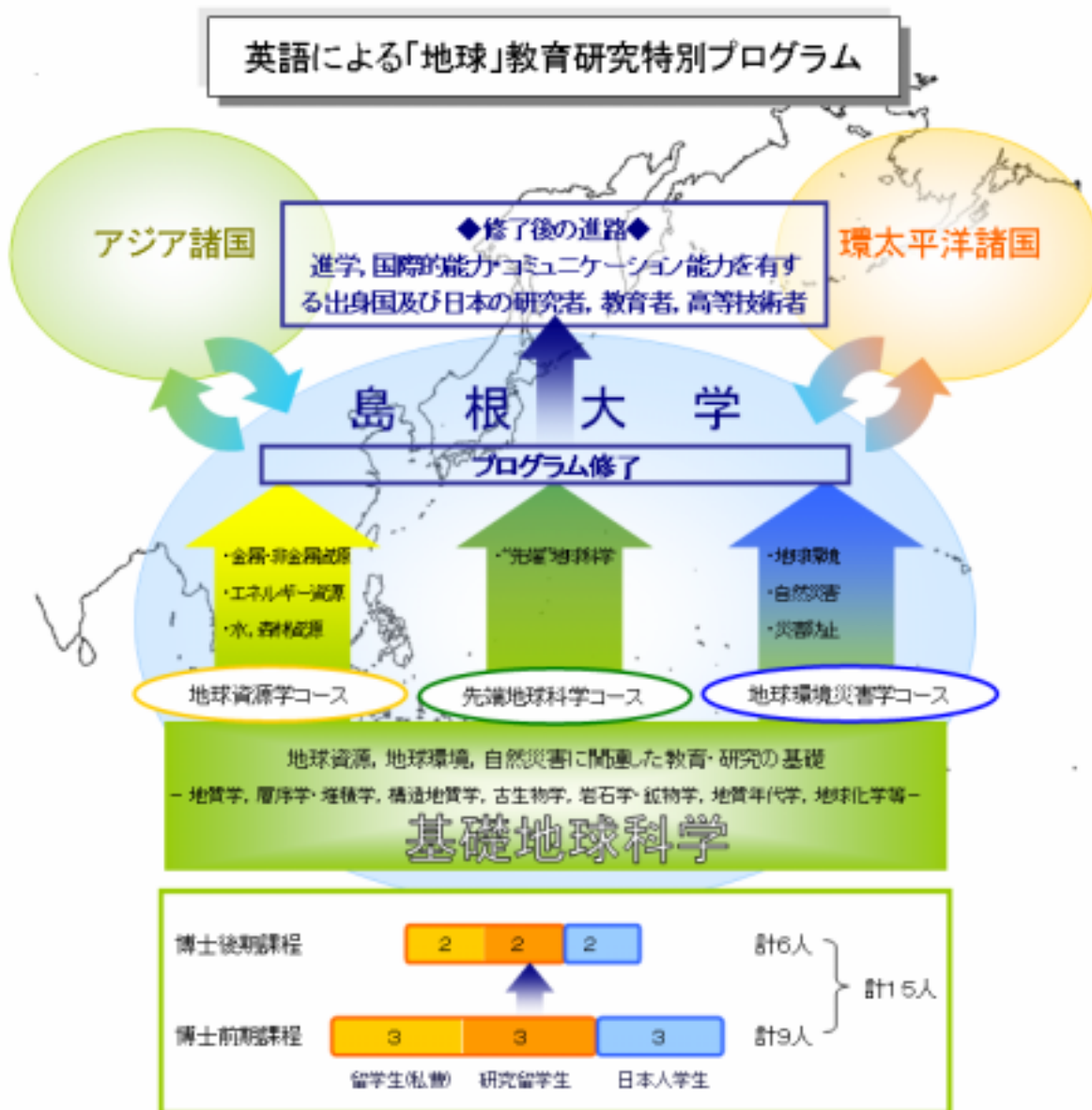
【3. プログラムの内容】

1) 概要

本プログラムでは、最先端地球科学の教育と研究を行うとともに、人類社会の持続可能な発展のために解決すべき地球規模の課題のうち、地球環境、エネルギー・資源、大規模自然災害などに関連して、地球科学の観点から教育と研究を行う。

本プログラムでは、主として地理的にまた自然環境的にも近接したアジア及び環太平洋地域の発展途上国からの留学生を受け入れる。これら発展途上国において、地球環境問題及び地球資源問題の国際的視野に立った解決が、今後の人類社会の持続的発展のために不可避である。本プログラムでは、優秀でありながら十分な教育・研究機会に恵まれない学生を研究留学生として受け入れ、全人類的要請にこたえる能力を持つ人材を育成する。

本プログラムに日本人の大学院生を加え、留学生とともに英語での教育・研究指導を行うことにより、留学生と日本人大学院生の双方に対し、共同学習・活動等を通じた異文化社会の理解を深める機会を与えると同時に、国際的な視野と競争力をつけ、かつ広く人類社会の発展に貢献できる人材を育成する。



2) 受入学生数 (単位 人)

	研究留学生(国費)	留学生(私費)	日本人	合計
博士前期課程	3	3	3	9
博士後期課程	2	2	2	6
合計	5	5	5	15

3) 課程及び期間

博士前期課程 2年 開始月 10月, 修了月 9月 (日本人は開始月 4月, 修了月 3月)

博士後期課程 3年 開始月 10月, 修了月 9月 (日本人は開始月 4月, 修了月 3月)

博士前期課程(1年または1年半)及び博士後期課程(1年~2年半)の早期修了の制度がある。優秀な研究業績を上げた博士前期課程及び博士後期課程の大学院生は、審査の上、早期修了が可能である。また、博士前期課程早期修了者は上記開始月にかかわらず、審査の上、博士後期課程に進学できる。

4) 授与学位

博士前期課程 (総合理工学, 理学または工学)

博士後期課程 (理学, 工学または学術)

5) プログラムの構成

博士前期課程及び博士後期課程に、先端地球科学、地球資源学、地球環境災害学の3コースを設置し、本プログラムの大学院生はいずれかのコースに所属する。各コースで行う教育・研究内容は以下のとおりである。

先端地球科学コース

地質学、古生物学、岩石・鉱物学、地質年代学、構造地質学等を先端地球科学の基礎分野として教育するとともに、46億年前の地球誕生から現在に至るまでの地球史における、核-マントル境界から地球表層部までの地球物質の大規模循環とテクトニクス、それらに密接に関連する生物圏の進化について、多様な専門分野からのアプローチと包括的理解による先端的研究を行う。

地球資源学コース

地球内部の金属資源(金・銀・銅・鉛・亜鉛等)、非金属資源(ゼオライト、珪砂、長石、粘土等)及び化石燃料資源(石油・石炭・天然ガス・メタンハイドレート)、地球表層部から地表に分布する地下水・水資源、土地資源、森林資源等を地球内部から地表までの物質循環の観点でとらえ、それらの産状、生成環境、成因等を解明し、各資源の評価、開発と利用及び保全についての研究を行う。

地球環境災害学コース

地球環境の計測と環境変動・環境予測、地球環境保全と修復に関連して、都市河川、湖沼、沿岸域など人間活動に密接に関連する水環境の保全と持続可能な利用方法を検討する。また、環境修復技術の開発や実用化に向けた研究、土壌処理技術の実証的研究を行う。さらに、最近頻発する大規模自然災害(地震、火山、津波、地盤崩壊等)の原因及びメカニズムの究明、自然災害の予測と予測、災害防止工学等に関する研究を行う。

6) 使用言語

外国人留学生に対しては授業、セミナー、試験、研究・教育・生活指導まで、すべてを英語で行う。本プログラムに所属する日本人大学院生に対しては、すべての授業及び試験を留学生とともに英語で行う。